

Title	巻頭言
Author(s)	井上, 孝
Journal	日本口腔検査学会雑誌, 11(1): 1-1
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10130/4824">http://hdl.handle.net/10130/4824</a>
Right	
Description	

## 巻 頭 言

日本口腔検査学会が産声を上げたのは、2017年秋の事である。当時掲げた目的は、「日本口腔検査学会は、歯科医療の高度化、患者への説明責任、新規歯科医療技術の導入などを達成し、国民の健康の維持増進の助けになることを目標とし、歯科医療、口腔疾患に関わる検査の開発、臨床現場への普及、検査値の標準化・標準値管理、検査・診断機器の開発、臨床検査会社との連携などを強力に推進すること」であった。平成30年度の診療報酬改定において、口腔機能に関する新病名や関連する検査が導入されたことは記憶に新しいが、本学会の関与は直接的ではなかった。

翻って、厚生労働省が謳っている今後の歯科医療ビジョンでは、歯科医療は、高齢化に伴う、患者の自立度の低下、疾患等による全身状態の低下、加齢に伴う口腔内変化、そして病院内、在宅での診療となると予想されている。この状況の中で、患者を把握する為に、「検査」を谷底に置いたままでは、安心・安全な歯科医療の提供は難しいと言える。歯科医師は高血圧、糖尿病、肝腎症、などの診断はできないが、患者の循環器系の状態、血糖の状態、肝腎の状態を把握することはできる。患者の状態、病気の状態を把握して治療を行わなければ医療事故に直結することは疑いない。このような検査の保険収載は課題である。また、診断名がつかなければ、保険導入が難しいなら、選定療養に検査を導入して歯科医療の安全・安心の質を保つ必要があり、これも本学会の仕事であると考え。勿論、口腔内の変化を唾液、歯肉溝滲出液という口腔特有の検体による検査を保険収載に導くことも本学会の使命であることは間違いない。

本学会の雑誌を通して、少しでもこれらのエビデンス作りに拍車をかけて頂き、これからの高齢化社会に貢献しなくてはならない。

理事長：井上 孝

2019年3月